



発行所
財団法人 漁船海難遺児育英会
東京都千代田区内神田
2丁目2番1号
鎌倉河岸ビル内
電話 03(254)7543

五十一年度育英事業のあらまし

漁船海難遺児育英会は、第八年度を最後として、高校生はすべて奨学金を受けた。この間、漁協系統始め多くの

人々の善意が、五千人を超える遺児奨学生を励ましてきた。

育英会事業には、小学生・中学生を対象にした学資給与事業と、高校生を対象とする奨学金貸与事業の二つの事業がある。

学資給与事業

○小学生 一、二二一人
○中学生 一、二二四人
○高校生 二六人
○(高校生 二六人)
に対し、小学生月額一、〇〇〇円、中学生一、五〇〇円、高校生二、〇〇〇円の学資給与金を、総額三六、〇四九、〇〇〇円給与した。ここに高校生が含まれているが、本事業に残った最後の定時制高校四年生で、これらの者

を最後として、高校生はすべて奨学金貸与事業に移行する。

小・中奨学生の推移をみると、いずれも前年度より減少している。特に、小学生の減少が大きい。この要因として、次のことが考えられる。

① 救助体制の整備強化もあるが、漁船装備の近代化の進展の中で救命具の発達等により、死亡を伴う海難事故が減少してきたという明るい動向がみられる。しかし、本会へ提出される父親の事故証明からうかがえることは、特に、海中転落事故の防止等安全対策の一層の強化が望まれる。

② 漁業従事者の年齢構成の高まりを反映して、残された子弟が小学生より中学生に比重が移っていると推定される。

③ 世帯あたり子供数が、一般的傾向と同様少なくなっている。

等のが推定されよう。
なお、小学校新入生(年度の第一回奨学生願書提出者のみ)には、一人二、〇〇〇円の入学祝金を贈呈したが、これまで一〇〇人を超えていた新入生が、五〇年度八一人、五十一年度四二人と急速に少なくなっている。

奨学金貸与事業

この事業は、高校生(水高専攻科含む)に対し、月額三、〇〇〇円の奨学金を貸与する事業である。

五十一年度は、四五三人に対し総額一六、三〇八千円を貸与した。

本事業は、これまでの進学率から推定して、毎年の中学卒業奨学生のうち三五〇人程度は高校へ進学していると

母子家庭のお母さん等の雇用促進制度の強化

労働省は、五十二年度から「母子家庭の母等の求職者に対する職業訓練と就職促進の強化策」を推進することとし、その準備を進めております。

◎ 職業訓練手当の支給
五十二年度から実施される就職促進策は、母子家庭のお母さん方が就職のための技能の習得を容易にするため、職業訓練を受ける場合に職業訓練手当(五十二年度平均月額六千八百円)が支給されるもので、訓練期間中の生活を保障する制度です。

現在、国や都道府県が設けている職業訓練校は、全国に約四二〇校あり、受講料は無料です。訓練期間は、おおむね六ヵ月から一年で、職種は約七〇種類あります。これまでの婦人の受講種類は、洋裁、和文タイプ、美容、事務、縫製等の訓練が多かったそうですが、これからはこうした職種のみでなく、多くの職種の訓練を受講する必要があると思われる。

受講については、公共職業安定所へ行けば、本人の希望、適正、地域の実情を考慮して、訓練コースを選ぶよう指導してくれます。これが終了すると身につけた技術を生かす職場へ就職の望みは、五十二年度の漁船海難遺児奨学生に比べて、前年度と大差ない一五三人の貸与希望者にとどまり、事業が軌道に乗ったといえない状況にある。この原因をさぐってみると、事業の周知の問題もあるが、①貸与金の額が少くない。②返還がめんどろだ。③借金はしにくい。等の理由に集中する。この反面、大学・短大・各種学校へ進学した場合も貸与してほしい。もう少し貸与金をふやしてほしい。等の強い希望が寄せられている。

五十一年度卒業生の進路

この春三月、中学奨学生四三九人、高校奨学生一五六人が、めでたく卒業した。卒業後の進路について、まだ未報告もあるが、ここでは、中間報告

あつせんをしてください。

◎ 婦人就業援助センターの新設
短期間に内職などに役立つ技術の習得をめざすお母さん方に、一ヵ月から三ヵ月で、和裁、洋裁等の内職技術を習得してもらい、仕事のあつせんをする機関です。しかし、この機関は本年度は全国で三ヵ所新設されるのみで、今後の拡大に期待されます。

◎ 全国的に四八カ所内職相談センター(三十年代発足、都道府県設置)があります。新設センターは、この相談センターの機能を拡大改組したものです。

本会は、本年三月一日現在で全国の漁船海難遺児奨学生世帯約二千のうちから四分の一を抽出して、生活実態調査をお願いし、現在集計に入っております。この調査の回答をみますと、お母さん方が生活のため、就職や内職のこと等でいろいろ悩んでおられます。今回の調査は、労働省も注目しており、また、お母さん方がもっと遠慮なく、職業安定所をおとすれ利用してほしいといっております。

せっかくの新しい施策も、漁村地帯にも機能の及ぶきめのこまかい施策を望みたいものです。

昭和五十一年度の漁船海難遺児奨学生に対する学資給与事業の実施にあたり、日本自転車振興会から前年度に引き続き「青少年の育英補助事業」補助金として、一八、〇二四、五〇〇円(事業費の二分の一)の交付を受けました。

公告

昭和五十二年五月
財団法人 漁船海難遺児育英会
理事長 鈴木 善 幸

である。

中学卒業生の進路状況

報告提出者二九六人の動向をみると、高校、高専への進学者は二五一人、八四%の進学率である。このほか、看護学校一人、職業訓練校二人がそれぞれ進学した。就職者は三二人であった。就職先は各分野に広がっているが、漁業には八人が就業しており、産業別では最も高い比率を占めている。

高校卒業生の進路状況

奨学金貸与奨学生一三〇人、学資給与奨学生二六人が卒業した。このうち進路報告提出者八七人について、その状況をみると、就職六二人、進学二五人である。

しかし、就職者の中には就職予定(就職先未決定)とするもの一八人を含んだ。

石川県海洋少年団

まごころの募金運動



金沢海洋少年団街頭募金

県下の海洋少年団は、金沢、七尾、姫、小木等六団があり、奉仕活動として毎年募金活動を実施している。この運動の歴史は、漁船海難遺児育英会設立と同じ昭和四十五年十一月、姫海洋少年団の活動を最初とし、他の団も二・三年の間に活動を開始した。募金実績は、第二期系統募金運動期間だけでみても四四四、五一円にのぼる。ある団長が街頭に出る前に団員にのべた次の言葉は、いつまでも印象に残る。「募金は、物もらいではない。堂々と胸を張って、海洋少年団の誇りを失わないように――」。

海を愛する団員達のさわやかな呼びかけは、海難遺児を励まし、街行く人々の心に、明るく、暖かく刻みこまれていることに間違いはない。

(石川県漁漁指導課 長安)

文集「だっこしてもらいたかった」
を読んで

東京都八王子市館町一八二二六六
小五 鈴木 みづほ

文集「だっこしてもらいたかった」
ありがとうございました。文集がど
いたのは十一月五日なのに今日までわ
すれそうだった私をゆるしてください。
お手紙に書いてあった鎌田さんは、
私とおなじ五ノ四です。
社会科の時、漁業をやったクラスの
たんにんの浅見先生が、きょう新聞を
読んで文集「だっこしてもらいたかつ
た」をおくっていただいたそうです。
それを聞いて私たちが住所をきいたと
いうことです。

どうふういたしました五〇〇円(切
手)は、私のきもちです。(母がくれ
たもの)少ないけど、私たちの年とお
なじことや、小学生でお父さんがいな
い方たちにさしあげてください。

都道府県別奨学生数

(昭和52年 3 月末現在)

県 名	学資給与奨学生				奨学金 与奨学生	合 計	51年度第 4 回新規採用者			
	小学生	中学生	高校生	計			小学生	中学生	(貸与) 高校生	合 計
北海道	209	226	11	446	52	498	13	6	—	19
青森	121	113	1	235	39	274	2	3	—	5
岩手	100	101	1	202	38	240	3	2	—	5
宮城	75	82	—	157	22	179	2	2	—	4
秋田	4	9	—	13	3	16	—	—	—	—
山形	34	28	—	62	22	84	2	—	—	2
福島	40	40	—	80	11	91	6	1	—	7
茨城	13	23	2	38	7	45	—	—	—	—
千葉	34	15	1	50	8	58	—	—	—	—
栃木	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—
東京	6	5	—	11	—	11	—	—	—	—
神奈川	7	13	1	21	7	28	2	1	—	3
新潟	32	28	1	61	8	69	2	1	—	3
富山	15	12	—	27	3	40	—	—	—	—
石川	20	25	1	46	8	54	—	—	—	—
福井	4	5	—	9	3	12	—	—	—	—
静岡	23	33	1	57	19	76	—	—	—	—
愛知	12	13	—	25	4	29	—	—	—	—
三重	18	24	—	42	10	52	4	1	—	5
滋賀	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
京都	1	1	—	2	2	4	—	—	—	—
大阪	4	2	—	6	—	6	—	—	—	—
兵庫	20	23	—	43	17	60	—	—	—	—
和歌山	11	9	—	20	6	26	—	—	—	—
鳥取	21	15	—	36	6	42	—	—	—	—
島根	23	21	—	44	12	56	1	—	—	1
岡山	5	1	—	6	3	9	—	—	—	—
広島	3	5	—	8	2	10	—	—	—	—
山口	49	47	—	96	20	116	2	1	—	3
香川	12	11	—	23	14	37	2	1	—	3
徳島	13	21	—	34	11	45	—	—	—	—
愛媛	25	24	4	53	13	66	3	—	—	3
高知	40	33	—	73	13	86	—	—	—	—
福岡	22	26	—	48	5	53	—	—	—	—
福岡県有明海	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
佐賀県玄海	12	7	—	19	—	19	2	1	—	3
佐賀県有明海	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
長崎	118	110	2	230	33	263	1	1	—	2
大分	15	14	—	29	1	30	3	1	—	4
熊本	10	5	—	15	3	18	—	—	—	—
宮崎	16	21	—	37	3	40	—	—	—	—
鹿児島	32	33	—	65	14	79	2	1	1	4
沖縄	2	—	—	2	—	2	—	—	—	—
合 計	1,221	1,224	26	2,471	453	2,924	52	23	1	76

◎ 質問にお答え

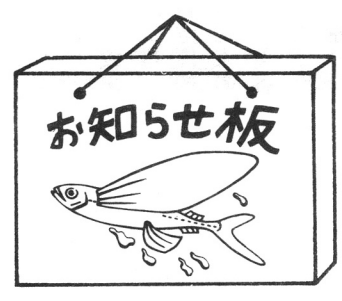
私のおばあちゃんがいるのは、青森
の下北です。海に出ている人が近所に
たくさんいます。いかやほたて、その
ほか魚がとれるけど、とっている人に
かんしやすきだと思ひます。魚を取
りにいけなくなつたみなさんのお父さ
んにもかんしやすきです。
この本は、みんなにかしてあげるこ
とにしました。さようなら。

文集「だっこしてもらいたかつ
た」は、昭和五十年十月、漁船海難
遺児育英会設立五周年を記念して、
本会奨学生及びお母さんの作文や詩
歌を編集した一六九頁の文集です。

詩

海に生きた
海に眠れし わだつみの
残りし遺児に今日もまた
強く生きよと
我は祈らん

425 静岡県焼津市本町六—五—三一
竜丸 今村 猛



お知らせ板

月から十二月までの六カ月分
第三回送金 十二月六日、昭和五十
二年一月から三月までの三カ月分。た
だし、十月一日付けで採用になつた奨
学生には、十月から三月までの六カ月
分

第四回送金 昭和五
十二年二月二十三日、
一月から三月までの三
カ月分。ただし、第四
回送金は五十二年一月
一日付け採用奨学生の
みです。したがって十
月までの採用者と前年
度からの継続奨学生へ
の送金は、第三回目の
送金で五十一年度分は
終了しております。

昭和五十一年度奨学給与金につ
いて
第一回送金 前年度からの継続者(高
二・高三)のみ、四月一日、四月か
ら六月までの三カ月分。第二回以降は
学資給与金と同じです。

昭和五十一年度も年四回にわたつて、
奨学生採用願書の受け付けをしました。
第一回から第三回までに採用された奨
学生数は、すでに本紙でお知らせして
きたとおりですが、最
終回に採用された人数
は上表右側のとおり、
学資給与奨学生では小
学生五二人、中学二三
人、高校生の奨学金
と奨学生一人、合計七
六人が新しく採用され
ました。

全国 の 仲間たち

したがって、年度末
(五十二年三月末)の
奨学生数は、学資給与
奨学生二人、奨学金
と奨学生二人の辞退者
があつたので、これら
の者を減じ総数二、九
二四人となりました。この内訳は上の表
のとおりです。また、このうち、三月に
めでたく卒業された奨学生は、中学生
四三九人、高校生一五八人でありま

『募金・寄附金』お礼

第二期漁船海難遺児育英会募金及
び一般寄附金として、次のとおり漁協
系統並びに一般個人の皆様から、多額
の御協力をいただきました。ここに、
前号につづき昭和五十二年一月から三
月間における御芳名を掲げ、厚く御礼
申し上げます。

※ 実績 昭和五十一年度

- 一、漁協系統募金
一億六〇、四一六、八三二円
- 一、一般寄附金
一六、九七五、七七七円

合計 一億七七、三九二、六〇九円
※ 御芳名(敬称略)

一、漁協系統募金(系統扱い寄附金
含む)

- 〔一月〕 宮崎県漁船海難遺児を励
ます協議会(以下協議会略) 北海道
道 鹿兒島県 鹿兒島県 青森県 鳥
取県(泊村漁協組合長賀賀井直氏香
典返し) 静岡県 静岡県 鳥取県
県(漁協水産有限会社兼組員井原武
人氏社葬香典返し) 三重県
〔二月〕 千葉県(放送批評懇談会
理事長鈴木均氏) 和歌山県 沖繩
県 兵庫県 岩手県 石川県(宮崎
住一氏夫人香典返し) 山形県 北
海道

〔三月〕

- 大阪府 京都府 静岡県
高知県 愛媛県 静岡県 鹿児島
県 熊本県 長崎県 鹿児島県 愛
知県 静岡県 兵庫県 千葉県 青
森県 愛知県 神奈川県 青森県
富山県 京都府 静岡県 和歌山
県 福井県 宮城県(齊藤氏氏氏氏
沼船員部会) 石川県 新潟県 秋
田県 山口県 岩手県 広島県 静
岡県 鹿児島県 愛知県 大分県
熊本県 山口県 宮城県 岩手県
茨城県 佐賀県(有明) 静岡県
佐賀県(玄海) 静岡県 広島県
徳島県 東京都 青森県 山口県
鳥取県 千葉県 長崎県 福岡県
宮城県 青森県 長崎県 北海道
沖繩県 長崎県 山口県 石川県

* 編集後記にかえて *

皆様お変わりありませんか。少しく
れましたが、第四号をおとけします。
三月一日現在で奨学生世帯の四分の
一の世帯にお願いしました生活実態調
査は六四%の回収率でした。御協力い
だいた皆様は厚くお礼申し上げます。
なお、卒業後の進路報告や、学資金
奨学金の領収書等の提出が、少数の人
ですがおこなわれておりますので、早く提
出して下さい。

- 〔一月〕 全漁連塩釜冷凍工場職員
漁協連役職員 全漁連海苔海藻部
大船渡漁協 境港漁協 監事
室 大阪支所 宮古冷凍工場 名古
屋冷凍工場 八戸油槽所 海苔海藻
センター 油質研究所 東京支所
釧路油槽所 各職員 全漁連設置募金
箱(二個) 水産庁瀬戸内海漁業調
整事務局職員 全日海千葉支部 海
洋画家佐藤幹児 水産庁漁船研究室
水産庁南海海区水産研究員 全漁連
経理第一部計算課募金箱 経理第一
部 石巻油槽所 鹿児島冷凍工場
金沢油槽所 大阪海苔流通センター
工場部 九州海苔流通センター 各
職員 水産庁日本海区水産研究員 漁
船保険中央会(募金箱)

〔二月〕

- 全漁連東北支所職員 全
国海苔類漁業協同組合連合会 全
漁連気仙沼冷凍工場職員 漁船同盟
(全日海根室支部 三重県遠洋漁船
船員組合第五支隊 丸船員一同 室戸
岬漁船船員組合 大原町漁船労働組
合 三崎船員組合) 海洋画家佐藤幹
児 国弘威雄 全日海千葉支部 水
産庁真珠研究所職員 全漁連長崎油
槽所職員 水産庁東海区水産研究員
〔三月〕 中部謙次郎(香典返し)
水産大学校有志 全水振興株式会
社(代表取締役西村清俊) 日本遠洋
いか漁協募金箱 熊沢海運株式会社
全国漁業協同組合学校 福井保(御
母堂香典返し) 石川富美子 以上。